

令和6年度小平市立花小金井南中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全ての項目において、全国平均を上回っていたが、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均よりも13.9ポイント高かった。知識・技能の正答率が高い傾向にある。

問題形式においては、短答式が72.0ポイントと最も高く、記述式が54.9ポイントに留まった。

課題

思考・判断・表現の正答率が知識・技能よりも8.7ポイント低く、苦手な生徒が多い傾向がある。その中でも記述式で無回答が多く、自分の考えを書く問題で3.9ポイント、要約の問題で5.0ポイントだった。今後、自分の考えを記述する指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

新聞記事のコラムを要約し、自分の考えを書く授業を年度後半に取り入れる。その際に、互いに読み合う活動も行い、インプットとアウトプットを繰り返し行えるようにする。

また、各単元の授業内では振り返りなど、自分の考えを文章にまとめる機会を作る。そして、クラスルームやロイロノートなどのICT機器を効果的に使い、よく書けているものを紹介して、自分の考えを書くときのモデルを構築させる。

【数学】

状況の分析

学習指導要領の領域においては、「数と式」で東京都より6ポイント高く、「図形」においては9.1ポイント、「関数」において8.9ポイント、「データの活用」では7.3ポイント高い結果となっている。評価の観点において、「知識・技能」では7.6ポイント、「思考・判断・表現」では7.6ポイント、問題形式では、選択式で10.1ポイント、短答式では5.7ポイント、記述式では7.6ポイント高い結果となっている。すべての項目において東京都の平均を上回っている。

課題

「数と式」「図形」「関数」「データの活用」において平均としては全国および東京都より上回っているが、正答率で見ると「図形」の領域が55.6と最も低い。中でも平面図形に関する問題で39.8と4割を下回っている。また「関数」では事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかという問題では31.5、データの活用において、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題においても30.4となっている。「知識・技能」が正答率が74.9にたいして「思考・判断・表現」の正答率が41.8と低いことが課題である。

学校で取り組む具体的な改善策

基本的な問題に対してはよくできるが、応用問題を解く力や、物事に対して筋道を立て数学的な表現を用いて説明する力がまだ育てられていないと思われる。引き続き習熟度別授業に取り組み。小集団での学び合い学習や習熟度に合わせた問題に取り組ませていく。

「自分にはよいところがあるか」「先生はあなたの良いところを認めているか」という自己肯定感を問う質問で「あてはまる」と答えた生徒がいずれも全国・東京都より多かった。また授業で ICT 機器を使用する頻度が高く、自らの学習に役立っていると実感している生徒が多いことがうかがえた。生徒同士の話し合い活動も学習効果をあげていると感じる生徒が多かった。

自分が認められていると感じている一方、将来の夢や目標を持っている生徒が少なく、様々な不安を抱えていることがうかがえる。また人が困っているときは進んで助ける、地域や社会をよくするために何かしてみたい、と考える生徒が少ない。中学生は社会を担う大人に成長する過程であり、多くの他者との関わりの中で力を付けていくが、身の回りの狭い範囲での関わりに終始している感がある。

学校で取り組む具体的な改善策

生徒自身が学習にさらに興味や関心をもち、主体的に取り組むことで、学びの目的が明確になり「学ぼうとする力」が獲得されていく。その力をさらに伸ばすためにも、全国学力・学習状況調査で課題となった点を確認・検討し、生徒に働きかけていく。

今回課題で明らかになったのは、他者や社会のために行動しようとする意欲の低さである。学校や友人関係には概ね満足しており、円滑な人間関係は築けている。しかし、自分の周りの狭い関係だけに終始しがちで、それ以外の人や社会全体に視野を広げると、積極的に関わったり、行動に移したりしないという傾向がうかがえる。学校生活や授業の中で、他者と関わり活動することのよさに気付かせ、他者と意見を交わして学びを深め、協働することで課題が解決できるという機会をさらに多くつくり、社会という大きな集団においてもその一員として他者との関係を構築できるような力を育てていく必要がある。

今後も継続して「自分で考える」→「自分の考えを周囲と共有する」→「自分の考えを再構築して理解を深める」活動を通して言語活動を柱とする学習を推進する。具体的には意見交換の場面を増やし、考えを共有し、自らの考えの深化を図り、学習意欲の向上を図る。またチームティーチング、習熟度別や少人数などの指導体制を充実させ、生徒の自主的な活動、自己肯定感の育成を推進する。